

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 高須 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

#### 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

#### 生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

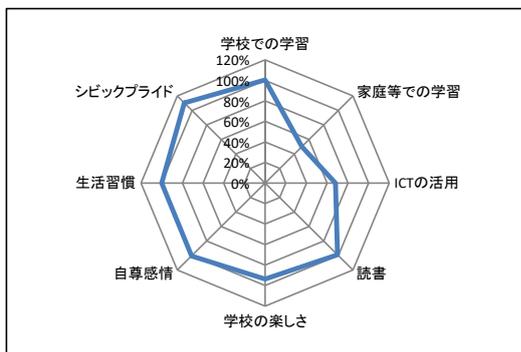
#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、「読むこと」は全国平均正答率を上回っている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、「書くこと」は全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものである適切なものを選択する問題	
	努力が必要な問題	・手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	「データの活用領域における知識・技能」の問題は、全国平均正答率を上回っている。「各領域における思考・判断・表現」の問題は、全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・不確かな事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数値的な表現を用いて説明することができかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	・図形においてある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	「粒子」を柱とする領域における思考・判断・表現の問題は、全国平均正答率を上回っている。「エネルギー」を柱とする領域における選択式の問題は、全国平均正答率を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	・牧野富太郎の「ノジグク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」などの問いに対して90%以上の生徒が肯定的に回答し、全国平均を大きく上回っている。</li> <li>・「家庭等での学習」や「ICTの活用」については、大きな課題がある。授業だけでなく、朝自習や家庭学習の課題にもAIドリルを用いるなど、効果的なICTの活用を図る工夫を学校全体でさらに取り組んでいく必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・他者の意見を見て学びを再構築したり、ポートフォリオとして蓄積したりする場面にタブレットを活用することを通して、メタ認知を高める学習に取り組む。また、ICTは目的ではなく手段であると捉え、どの学びを深めたいか、何を考えさせたいかから考え、学校全体で研究を進めていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習で取り組む課題の出し方を工夫し、「毎日30分以内」となるよう時間を明示し、長時間の課題は、週末のまとめ課題に限定するなど、家庭学習が生活の一部になるよう取り組む。